

みえU18会議 概要

開催日：令和7年12月17日（水）

場 所：三重県立松阪工業高等学校 資料館（赤壁校舎：旧三重県立工業学校製図室）

意見交換参加者：○三重県立松阪工業高等学校2～3年生 6名（男性：3名、女性：3名）

○三重県知事

○三重県政策企画部（人口減少対策課）、地域連携・交通部（交通政策課）

内 容：「未来の理想の姿とその実現に向けて」をテーマに、高校生と知事が意見交換。

（意見交換の内容）

～未来の理想の姿とその実現に向けて～

…将来（例えば、約15年後の2040年）、どのような暮らし方を望んでいるか

○どこに住んでいると思うか

○自分自身は、どのような姿を理想としているか

○その理想の姿を実現するために、不安に思うことやネックはあるか

（高校生）

○高校卒業後に就職する気持ちがあったので、就職率の高い松阪工業高校を選んだ。高校で学んでいるうちにもっと勉強したいと思い、進学（工学部）に進路変更した。大学は、実家から通える県内大学を選んだ。一人暮らしには不安がある。将来は、大学で学んだことを生かして電力会社で働いていたい。今のところ、将来は三重県にいたいと考えている。家族と仲良く暮らしたいという思いもある。

○高校卒業後は、県内進学を予定している。将来は、三重県に住み続けていたい。ただ、今住んでいるところは田舎で、駅・スーパー・病院等へは車が必要なため、もし新しい家庭を築いていたならば、より病院・スーパー等の生活に必須の施設が近くにあるところに住みたいと考える。この数年の間に、近所のバスが週数日しか走らなくなった。タクシーも台数が少ないため呼べない。徒歩圏内に、病院・スーパー・駅等があるとすごく理想だとは思いますが、せめてバスに乗れば駅や病院に行ける環境に住んでいたい。将来の理想の姿のモデルとなる人物は想像がつかなかったが、結婚や子育てはしていきたい。子育てを中心に無理な程度で、子どもが学校に行っている時間帯に働ける環境が整っていたら、仕事と子育ての両立がしやすい。理想の姿を実現するために不安に思うことは収入面。三重県は使えるお金が多いということだが、ニュースで物価高のことは見聞きする。米不足で米の値段が特に高くなったことが気になっている。我が家では父が兼業農家で米を作っているので米を購入することは無いが、15年後、父は米づくりができないだろう。その時に、自分が結婚して子育てをしてという中で、価格が高騰した米を買うことに不安を感じる。また、給食の無償化をしている地域が少しずつ増えていると知った。自分が小学校高学年頃、給食費が上がったものの品数が減った。三重県全体で給食費が無償化されたら、子育てがしやすいのではないかと。三重県は自然が豊かで公園もたくさんあるが、自宅近くの公園の遊具が無くなってしまった。家の中だけでなく外でも遊べるように、公園が整えられていたら嬉しい。

○高校卒業後は、県内就職を予定している。将来、津市の会社で働いているので三重県から出ているということはおそらくない。津市まで実家から通勤するか、一人暮らしをするかは未定。いつかは一人暮らしもしてみたい。母親の実家が東京にあるので、長期休みなどによく帰省するが、三重県に帰ってきて思うのが、空気や水がおいしいということ。東京は楽しく便利などころではあるが、いざ住みたいかとなると、そうでもないと思うことが多い。三重県に住んでいたらと思う。我が家はお茶農家。私はオンラインゲームが趣味で、成人の友達とネット通話をするのだが、フリーランスの人が多い。フリーランスだと、趣味と仕事の両立がしやすいそう。自分は会社員になって会社に通うという形になるので、趣味と仕事の両立が少し不安に感じる。自分自身は、フリーランスのように自分で仕事を取ってきて働くという形は向いていないように思うので、働くときはしっかり働いて、自分の時間もしっかり取りながら生きていきたいと考えている。

○地元で働くか県外に出ていくかすごく悩んだが、高校で学んでいくうちにやりたい仕事が見つかった。高校卒業後は、大阪での就職を予定している。今日の意見交換の話をいただくまでは、将来は漠然としていて、大阪で暮らして技術職として働いて、三重県には帰らないくらいしか考えていなかった。今回、三重県の良いところとして、給料が高く必要経費が安いといったことを聞いた。もう少し早く聞いていれば、三重県の企業を探していたのになと少し残念な気持ちになった。また、リニア中央新幹線の話聞いて、大阪まで20分ほどで通うことができるなら、三重県に住みながら通うのもいいなと思った。私は通学に短くて1時間、電車の乗換が必要であれば2時間の時間がかかっている。小さい頃からずっと三重県に住んでいて、小学校や中学校で、キャンプといった自然体験授業を多く経験してきた。そういうのがとても好きなので、自分が子育てをしている姿は浮かばないが、もし子どもができたりしたら、その際は大阪とかではなく、自然豊かな三重県で暮らしていけたらいいなと思う。

○高校卒業後は、県内での進学（工学部）か就職（製造業）を希望。将来は漠然としていて、今回真剣に考えてみたら難しかった。どこに住んでいるかと考えると、15年後は企業に就職して、三重県内にいない可能性の方が高いように思う。もっと先の25年後とかは、三重県に戻って自然豊かでゆっくりとした三重県で落ち着いて過ごしたい。自分の理想は父親のようになること。将来地元に戻ってこれるなら戻ってきて、子育ても自然豊かなところでしたい。理想の姿を実現するうえで不安に思うことは、交通のこと。自分の住んでいる地域は駅やスーパーも近いので、移動も不便ではない。ただ、10年後20年後となると少子化もすすむので、三重県に戻ってくるときに交通網が衰退していることが不安。

○高校卒業後は、県内就職を希望。都会や人混みが苦手なので、松阪市か津市あたりで、家庭を持ってもお金に余裕のある暮らしをしたい。自分の理想は兄。理想を実現するためには、自分に自信を持つことが大事だと思う。他の人の良いところを見つけて、その後に自分の良いところを見つけて自信をつけたい。

（知事）

○私自身が皆さんくらいの年齢のときは、どこかの大学に行くのかなというくらいしか思っていなかった。皆さんはしっかり自分の将来像を持っている。未来を想像するのは難しいこともある。先ほどリニア中央新幹線を使って通勤という話も出たが、今は転職が当たり前になってきていて、特に皆さんのように資格を持っている方は転職もしやすく、自分の住みたいところに転職するということもできる。

○ブルーカラーミリオネアというアメリカの言葉がある。ホワイトカラーといわれる事務の仕事がAIに取って代わられて仕事がなくなってくる。今後は皆さんのように資格を持った人が多くの給料をもらうという社会に変わっていくだろうと言われている。アメリカはそういう社会になりつつある。

(県交通政策課)

○交通が不便だという話が複数あった。今人口がどんどん減ってきているので、車がないと日常生活が送れない、必要な施設、病院や学校に行くことができないという地域が増えてきている。国や県、市町が一緒に、交通が不便なところをなくしていこうという取り組みをしている。人口が減ると施設もおのずと少なくなるため、生活に必要な施設までの移動手段の確保はますます重要になると考える。

(知事)

○都道府県別の経済的豊かさを見ると、都会は収入はあるが費用もかかる。令和8年4月からの公立小学校の給食費無償化が決定した。働ける間はいいが、高齢になり年金で生活するようになると、生活費が安い方が豊かな生活を送ることができる。そういうことでいうと、三重県はゆとりのある生活ができる。交通は三重県より東京や大阪、愛知の方が便利だが、何を優先するかという選択になる。三重県は自然も豊かで気候も温暖で、その点でも条件はいいと思っている。

(県人口減少対策課)

○ジェンダーギャップ解消について。子育てをしにくい原因は、働き口の問題もあるが、仕事と家庭を両立しようと思うと、男性の子育て参画がすすむことが求められる。三重県はその点に課題を抱えているので、ジェンダーギャップ解消に向けた戦略を作っている。

○仕事と子育てについてや、結婚相手に仕事を続けて欲しいか等、どう思っているか。

(高校生)

○私の家族は、父が仕事をして、母が昼間少し働いて家事をするという形で、それで家庭は回っていて結構理想的だとは感じているが、先ほど話があったジェンダーギャップはあると思う。自分が家庭を持ったら、家事や子育ては手伝おうと思っているので、手伝うことができる環境も整ってほしい。

○母が午前中働いているが、少し前までは専業主婦だった。父が朝早くから夜遅くまで働いている。その環境が私の中では普通のこと。歯科衛生士になりたいので、長く働くことでキャリアアップできる資格ということを考えたときに、仕事は続けていきたい。子育てについては、どちらかばかりが負担になるという考えではなくて子どもの良さが伸びるような働き方が夫婦でできるのが理想だと思う。

○現在アルバイトをしていて、働くこと自体が好きなので進路は就職を選んだ。もし子どもができたとしても、働き続けたい。家はお茶農家をしていて、両親が家にいるのが当たり前で、家事育児をしている環境だった。私は4人兄弟だが、人数が多いといつもにぎやかで楽しく、子どもが欲しいという気持ちがある。

○私は送配電の技術職になるので、災害等で電気が止まったときは、夜中でもすぐに現場に駆けつけなければならない。そういう状況で子どもや家庭を持つイメージがわからない。母はパートで朝の9時ごろから夕方3時ぐらいまで働いていて、朝は母にいつてらっしゃいと言われて、帰るときには母が家にいるという状態で、私の中ではそれは割と理想に近く、仕事もしな

がら子どもと関わる時間も長く、家事などもできるところは、魅力的だと思っている。職場と家が近く通勤時間が短いことで、仕事をする時間も、家庭と関われる時間も長くとれるので、交通の便が深く関わってくると思う。朝から夜まで働かないとは思わない。自分がしたいことをできる環境があることが理想だと思っている。

(知事)

○皆さんの世代はおそらく、男性も女性も仕事を続けたいと思えば続けられる社会になってくると思う。人口が減少しても仕事の量はすぐに減っていかない。特に皆さんは、資格を持って働いておられるのでA Iに取って代わられることがないのも大きい。

○パートの話が出た。短時間の勤務条件だと、パートしか選べないという状況がある。日本も変わろうとしているし、外国はもう変わりつつある。正社員の身分のままで、短時間勤務を選べるようになる。そうすると、家庭も大事にしながら仕事もできる。それは、夫婦ともに短時間勤務をすることもあり得るし、年間の一部分で短時間勤務をするという働き方も出てくるのではないか。

(県人口減少対策課)

○結婚相手に働きたいと言われたらどうか。

(高校生)

○両親が共働きだが、母親のできるところと、父親ができるところというのが違っていて、そこをうまく補い合っている姿が、理想の姿。自分も将来、パートナーができたとき、相手のことを尊重して、お互いにできることをお互いに頑張っていけたらいいと思う。

○両親が共働きで、母に家事の負担がかかっている。私が家庭を持ったら、できるだけ育児に参加したいと思うので、会社が育児する時間を与えてくれたらいいなと思う。

(知事)

○育児休業を取得する男性は増えてきている。県庁職員の取得もどんどん増えている。皆さんが社会に出るころにはさらに男性の育児休暇取得は増えてくるだろう。北欧では1年間や2年間育児休暇が取得できる。おそらく日本もそれに近づいていくようになる。

(高校生)

○都会だと子どもが保育園に入れられなくて職場に復帰できないという話を聞いたことがある。現在、三重県で行っている育児に関わる政策を教えてほしい。

(県政策企画部)

○三重県の待機児童の数は市町によって状況が異なる。完全に満たしているところもあれば、そうでないところもある。現状では保育士等の職員が足りないとか、年によって子どもの数も変動がある等、なかなか追いついてない。公立・私立の施設もあれば、企業が企業内に設置しているところもある。待機児童解消の対応をすすめている。

(知事)

○子どもがどんどん減っているので、待機児童は少なくなっていくと思う。ただ、地域によって、保育士の数が少ないところもあり、そこは課題。市町は、住民に住んでもらうために子育て施策に力を入れており、県は市町の取組を支援している。例えば、産後ケア施設の利用券をお渡しするとか、幼稚園や保育園で発生するおむつを回収するなどの取組である。子どもを育てる環境が充実するように取り組んでいる。今後、さらに環境が良くなっていくと思う。

(高校生)

○通学のために毎日母に送迎をしてもらっていて、最寄り駅まで車で10分。坂道が多いので自転車では厳しい。私は近鉄を使っているが、JR名松線を通っている友達は本数が少ないので、半日授業やテスト期間は早く帰れず困っている印象がある。

○度会町内に駅が無くて、多気町の多気駅まで車で30分かかる。通学のために祖父母に送迎してもらっているが申し訳ない。

(県交通政策課)

○運転士が減ってきて、民間の路線バスの運行をなかなか続けられない状況。お金をもらって人を運ぶサービスをするには、特別な緑ナンバーの許可をとった車や、運転士の二種免許が要る。民間の事業者はお客さんが乗らないと維持できない。そのため、国は、普通の車で二種免許も無しで、自治体が運行主体となって人を運ぶサービスの導入をすすめている。県は市町と一緒に取り組み、県内全域に広げていきたいと考えている。

(知事)

○29市町のうち13市町でやり始めている。まずは、おそらく高齢者がスーパーや病院に行く、そのあたりが優先され、次には学生の通学や下校のことを考えていくことになるだろう。

(高校生)

○南海トラフ地震の話最近よく聞く。三重県は海岸沿いで、実家や学校も川に近いので、不安な思いが強い。10年後20年後だと他人事ではなく不安。県の対策を教えてください。

(知事)

○南海トラフ地震は、今後30年以内に約9割の確率で起こる可能性がある。国の推計では、県内で3万人弱の人が亡くなると言われている。今、三重県独自の推計を行っている。

○一番大事なのは、地震が起きたときに命をなくさないこと。そして次に、その津波に飲み込まれないこと。特に県南部はリアス海岸で大きな津波が来襲する。今、三重県では津波避難タワーの設置、津波避難ビルの指定、避難情報等を届ける防災アプリの作成を行っている。

○それでも、被災をされる方はたくさん出るので、避難所の充実や温かい食事、一人一人の空間の確保などに取り組んでいる。

○県は、南海トラフ地震に備えるための条例を作り、より計画的に、県、市町が必要な対策を取っていくので、心配は心配だと思うが、その部分は安心してほしい。

(知事)

○本日は、皆さんから率直な意見や不安、行政への要望等をいただいた。

○できれば三重県に住みたい、将来三重に帰ってくることもあるかもしれない、というお話しもあったので、三重県をどうやって住みやすい県にしていけるか、皆さんの意見もいただきながら、これからも考え、様々な課題の解決に向けて取り組んでいきたい。

